

**CASBEE-新築(簡易版)2010年版**  
**TOTO新複合施設棟**

■使用評価マニュアル CASBEE-新築(簡易版)2010  
 ■評価ソフト: CASBEE-NCb\_2010(v.1.8)

欄に数値またはコメントを記入

スコアシート		実施設計段階	建物全体・共用部分		住居・宿泊部分		全体
配慮項目	環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	
<b>Q 建築物の環境品質</b>							<b>4.1</b>
<b>Q1 室内環境</b>				0.40			<b>3.6</b>
<b>1 音環境</b>			<b>3.5</b>	0.15			<b>3.5</b>
1.1 騒音			<b>4.0</b>	0.40			
1 室内騒音レベル	主要な室温騒音レベルはNC値45以下とする		4.0	1.00			
1.2 遮音			<b>3.4</b>	0.40			
1 開口部遮音性能			3.0	0.60			
2 界壁遮音性能	遮音性能をDr-40とする		4.0	0.40			
3 界床遮音性能(軽量衝撃源)							
4 界床遮音性能(重量衝撃源)							
1.3 吸音			<b>3.0</b>	0.20			
<b>2 温熱環境</b>			<b>3.6</b>	0.35			<b>3.6</b>
2.1 室温制御			<b>3.0</b>	0.50			
1 室温			3.0	0.38			
2 外皮性能			3.0	0.25			
3 外皮性能			3.0	0.25			
4 ゾーン別制御性			3.0	0.38			
2.2 湿度制御			<b>3.0</b>	0.20			
2.3 空調方式	床輻射冷暖房の採用		<b>5.0</b>	0.30			
<b>3 光・視環境</b>			<b>3.2</b>	0.25			<b>3.2</b>
3.1 昼光利用			<b>2.2</b>	0.30			
1 昼光率			1.0	0.60			
2 方位別開口							
3 昼光利用設備	吹抜け空間を設けることで、昼光を積極的に利用		4.0	0.40			
3.2 グレア対策			<b>3.0</b>	0.30			
2 昼光制御			3.0	1.00			
3.3 照度			<b>3.0</b>	0.15			
3.4 照明制御	自動照明制御を採用している		<b>5.0</b>	0.25			
<b>4 空気質環境</b>			<b>4.3</b>	0.25			<b>4.3</b>
4.1 発生源対策			<b>4.0</b>	0.50			
1 化学汚染物質	F☆☆☆☆の建築材料を全面的に利用		4.0	1.00			
4.2 換気			<b>4.3</b>	0.30			
1 換気量	居室の換気量 30m <sup>3</sup> /H・人を確保		4.0	0.33			
2 自然換気性能	必要換気量の2倍以上の外気冷房の採用		5.0	0.33			
3 取り入れ外気への配慮	給排気ガラリーを6m以上離して設置		4.0	0.33			
4.3 運用管理			<b>5.0</b>	0.20			
1 CO <sub>2</sub> の監視	中央監視によるCO <sub>2</sub> 制御の採用		5.0	0.50			
2 喫煙の制御	喫煙室を設置して、排気により気流の流れを確保した計画としてい		5.0	0.50			
<b>Q2 サービス性能</b>				0.30			<b>4.2</b>
<b>1 機能性</b>			<b>4.2</b>	0.40			<b>4.2</b>
1.1 機能性・使いやすさ			<b>3.3</b>	0.40			
1 広さ・収納性			3.0	0.33			
2 高度情報通信設備対応			3.0	0.33			
3 バリアフリー計画	バリアフリー新法に該当する計画とする		4.0	0.33			
1.2 心理性・快適性			<b>4.6</b>	0.30			
1 広さ感・景観	天井高さ2.8m以上を確保		4.0	0.33			
2 リフレッシュスペース	随所にコミュニティスペースや自販機を設置		5.0	0.33			
3 内装計画	照明計画に加えパース製作を行う		5.0	0.33			
1.3 維持管理			<b>5.0</b>	0.30			
1 維持管理に配慮した設計	便所等汚れが付きやすい場所には抗菌性・防汚性の高い仕上げ		5.0	0.50			
2 維持管理用機能の確保	各階の便所に清掃用具室を設置		5.0	0.50			
<b>2 耐用性・信頼性</b>			<b>4.4</b>	0.31			<b>4.4</b>
2.1 耐震・免震			<b>5.0</b>	0.48			
1 耐震性	設計用地震動の1.5倍の荷重に対する耐震性能を有する		5.0	0.80			
2 免震・制振性能	免震構造の採用		5.0	0.20			
2.2 部品・部材の耐用年数			<b>3.4</b>	0.33			
1 躯体材料の耐用年数			3.0	0.23			
2 外壁仕上げ材の補修必要間隔			3.0	0.23			
3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔	内装仕上げは耐用年数20年以上の製品を使用		5.0	0.09			
4 空調換気ダクトの更新必要間隔	高湿系には塩化ビニルライニングダクトを採用		5.0	0.08			
5 空調・給排水配管の更新必要間隔	給水にVLP、消火にSGP(白)を採用		4.0	0.15			
6 主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.23			

2.4 信頼性	1	空調・換気設備	電気室等は単独系統とし災害時の換気/空調運転が可能	4.6	0.19	[Cross-hatched]	-	-
	2	給排水・衛生設備	節水型器具を積極的に採用	5.0	0.20			
	3	電気設備	非常用発電設備や無停電電源設備を採用	4.0	0.20			
	4	機械・配管支持方法	耐震クラスSを確保	5.0	0.20			
	5	通信・情報設備	光ケーブル・メタルケーブルを採用	4.0	0.20			
<b>3 対応性・更新性</b>				<b>3.9</b>	<b>0.29</b>			<b>3.9</b>
3.1 空間のゆとり	1	階高のゆとり	階高を4.2m以上とし、ゆとりある計画とする	4.2	0.31	[Cross-hatched]	-	-
	2	空間の形状・自由さ		5.0	0.60			
3.2 荷重のゆとり				3.0	0.40			
3.3 設備の更新性				3.0	0.31			
3.3 設備の更新性	1	空調配管の更新性	天井内スペースが十分に確保されている	4.4	0.38	[Cross-hatched]	-	-
	2	給排水管の更新性	パイプスペースが十分に確保されている	4.0	0.17			
	3	電気配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.11			
	4	通信配線の更新性	仕上材を痛めることなく更新・修繕が可能	5.0	0.11			
	5	設備機器の更新性	主要機器はマシンハッチ・適切なルートが確保されている	5.0	0.22			
	6	バックアップスペース	熱源機器についてバックアップスペースを確保	5.0	0.22			
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>				<b>-</b>	<b>0.30</b>			<b>4.8</b>
1 生物環境の保全と創出				5.0	0.30			5.0
2 まちなみ・景観への配慮				5.0	0.40			5.0
3 地域性・アメニティへの配慮				4.5	0.30			4.5
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	中庭や屋上テラス、庇を設ける			5.0	0.50	[Cross-hatched]	-	-
	屋上緑化や緑豊かな外構計画を行う			4.0	0.50			
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>				<b>-</b>	<b>-</b>			<b>4.0</b>
<b>LR1 エネルギー</b>				<b>-</b>	<b>0.40</b>			<b>4.3</b>
1 建物の熱負荷抑制				3.0	0.30			3.0
2 自然エネルギー利用				5.0	0.20			5.0
2.1 自然エネルギーの直接利用	ソーラーチムニーを設け、自然換気を促進する			5.0	0.50	[Cross-hatched]	-	-
	太陽光発電を設置。また、ソーラーチムニーの暖かい空気を熱源			5.0	0.50			
3 設備システムの高効率化				4.7	0.30			4.7
集合住宅以外の評価 (ERRによる評価)				4.7				
集合住宅の評価				[Cross-hatched]				
4 効率的運用				5.0	0.20			5.0
4.1 モニタリング	BEMSにより建物全体としてのエネルギー消費傾向が把握できる			5.0	0.50	[Cross-hatched]	-	-
	年間エネルギーの目標値が計画されている			5.0	0.50			
<b>LR2 資源・マテリアル</b>				<b>-</b>	<b>0.30</b>			<b>3.9</b>
1 水資源保護				3.4	0.15			3.4
1.1 節水	節水型器具を積極的に採用			4.0	0.40	[Cross-hatched]	-	-
	雨水利用・雑排水等の利用			3.0	0.60			
1.2 雨水利用・雑排水等の利用	雨水利用システム導入の有無			3.0	0.67	[Cross-hatched]	-	-
	雑排水等利用システム導入の有無			3.0	0.33			
2 非再生性資源の使用量削減				3.9	0.63			3.9
2.1 材料使用量の削減	SM490材、BCPの使用。継手部溶接接合によるSPLの削減			4.0	0.07	[Cross-hatched]	-	-
	既存建築躯体等の継続使用			3.0	0.24			
2.2 既存建築躯体等の継続使用				3.0	0.24			
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用				3.0	0.20			
2.4 非構造材料におけるリサイクル材の使用				5.0	0.20			
2.5 持続可能な森林から産出された木材				3.0	0.05			
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み				5.0	0.24			
事務室の床にフリーアクセスフロアの利用				5.0	0.24			
3 汚染物質含有材料の使用回避				4.3	0.22			4.3
3.1 有害物質を含まない材料の使用				5.0	0.32			
3.2 フロン・ハロンの回避				4.0	0.68			
1 消火剤	GWPが低い発泡剤を使用			-	-	[Cross-hatched]	-	-
	発泡剤(断熱材等)			5.0	0.50			
3 冷媒				3.0	0.50			
<b>LR3 敷地外環境</b>				<b>-</b>	<b>0.30</b>			<b>3.7</b>
1 地球温暖化への配慮				3.9	0.33			3.9
2 地域環境への配慮				4.0	0.33			4.0
2.1 大気汚染防止	低NOX型給湯器を採用			4.0	0.25	[Cross-hatched]	-	-
	屋上緑化や外構の緑化を行う			4.0	0.50			
2.2 温熱環境悪化の改善				4.0	0.50			
2.3 地域インフラへの負荷抑制				4.3	0.25			
1 雨水排水負荷低減	-			-	-	[Cross-hatched]	-	-
	-			-	-			
2 汚水処理負荷抑制				3.0	0.33			
3 交通負荷抑制				5.0	0.33			
4 廃棄物処理負荷抑制				5.0	0.33			
十分な駐車場スペースを確保する				5.0	0.33			
屋外に廃棄物分別保管場所を確保する				5.0	0.33			
3 周辺環境への配慮				3.4	0.33			3.4
3.1 騒音・振動・悪臭の防止				3.0	0.40			
1 騒音	-			3.0	1.00	[Cross-hatched]	-	-
	-			-	-			
2 振動				-	-			
3 悪臭				-	-			
3.2 風害・砂塵、日照阻害の抑制				3.0	0.40			
1 風害の抑制	-			3.0	0.70	[Cross-hatched]	-	-
	-			-	-			
2 砂塵の抑制				3.0	0.70			
3 日照阻害の抑制				3.0	0.30			
3.3 光害の抑制				5.0	0.20			
1 屋外照明及び屋内照明のうちに漏れる光への対策	検討体制が適切で、エネルギーの有効利用が図られている			5.0	0.70	[Cross-hatched]	-	-
	反射光への対策が行われている			5.0	0.30			